

学生定住促進策探る

八学大生と八工大生

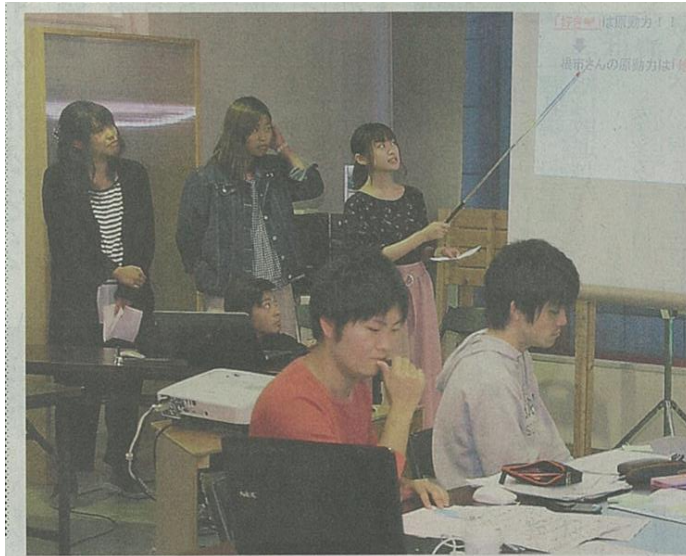
共同調査の成果発表

八戸

八戸市の八戸学院大学と八戸工業大学の学生たちが共同で地域の魅力や課題を探し、学生定住促進の方策を考える共同調査の発表会が10日、同市の八戸ニューポルトで開かれた。学生たちはグループごとに定めたテーマについて調べた成果をパワーポイントで発表、

同市や周辺の町村に対する認識を新たにしていた。

八戸学院地域連携研究センターの「学生定住促進に向けたはちのへエリア体験事業」の一環。参加した八学大9人、八工大8人の計17人の1、2年生は4グループに分かれ、「観光」や「働き方」などのジャンルに浴ったテーマを設定、8月に体験や調査を行った。この



自分たちで決めた研究テーマについて調査結果を発表する両大学の学生たち

うち、「学生がもっと買いたくなる南部せんべいを提案する」をテーマに市内の南部せんべい製造元や販売店、せんべい汁提供店などを訪ねたグループは「焼き方や種類、料理など身近な素材なのに知らないことが多かった」と調査の感想を発表。その上で、複数種類のせんべいを詰め合わせて販売、コンビニエンスストアの地域限定商品としておでんだねにせんべいを使うなどを提案した。

発表会には両大学の担当教員や、調査で学生と触れあった地域住民らも参加。学生が提案した商品やサービスの対象年齢層などについて熱心に質問していた。

(若松清巳)